

学校評価に対する対応策

(7) 中間的な評価を実施し見直しを行ったこと

ア 校則の見直し

- ・ 昨年に引き続き、ルールメイキング委員会や生徒、教職員、保護者による三者対話会で校則見直しの議論を進め、今年度は、学校指定ソックスの廃止や正装規定、頭髪規定の見直しを行い、生徒手帳の「生徒心得」の文言を改定した。

イ ICTの活用

- ・ 各クラスに設置した電子黒板を使用して、分かりやすい授業を実施したり、始業式や講演会等の行事でリモート配信を行った。
- ・ 生徒全員に配付しているタブレットを授業や探究活動で使用する場面を設け、積極的な活用を促した。また、生徒用月間行事予定の配付や学校評価、進路希望調査、高校生アンケート等の回答をタブレットで行った。
- ・ タブレットの forms 活用を促進する職員研修を実施した。
- ・ 職員会議の資料を紙で印刷せず、データを職員のタブレットに配信する形に変更し、会議を実施した。
- ・ 学校のホームページを頻繁に更新し、内容を充実させ、本校の情報を発信した。

ウ 総合的な探究の時間

- ・ 他学年、他学科との交流（相互の発表会の見学）を行い、良い刺激になった。
- ・ 外部の団体（青春基地）との連携によるオンラインヒアリング（全国の様々な職種の人との対話）を実施し、様々な視点からアドバイスをいただき、生徒にも新たな発見があった。また、生徒が公民館との連携を準備・実施することにより、生徒の成長が見られた。
- ・ 年度初めに、全職員が探究活動を理解するため、小グループに分かれて意見交換やロールプレイを実施した。

エ 3年生土曜課外

- ・ これまで3年生対象の土曜課外では、進学先決定後の10月以降参加者が激減する傾向にあった。今年度は、2学期から生徒が参加しやすい平日の月曜日にステップアップ課外（国、数、英のべ12回）を実施した。

(8) 評価結果に基づく今後の改善方策等

ア 進学者に対する学習の充実、自主的に学習する環境づくりについて

- ・ 来年度より月曜7時限目を新設する。検定等の合格に向けて、生徒が自分で見通しを立てて取り組むことを通して、自学自習の習慣を定着させ、学習意欲を向上させることを目的とする。また、3年生の進学者（大学等）に対しては講座を別に設け、大学入試問題等の演習、解説を行う。

イ 登下校送迎時の乗降場所について

- ・ 現在、保護者の送迎は、学校の南側道路でお願いしているが、車が渋滞し、乗降時の生徒の安全が確保できないこと、近隣の方に迷惑が掛かっていることから、来年度より、本校内のテニスコート南側駐車場に変更する。

ウ 検定取得について

- ・ 商業科では、目標とする級の見直しを行う。1年生の入門級の段階で躓かない

よう、アクティブラーニングを再開するなど授業展開を工夫し、フォローしていく体制（生徒同士で教え合える環境）を整える。

- ・普通科でも積極的に挑戦していけるよう授業で周知する。また、課題や過去問の配付や基礎力定着のための指導を行う。
- ・学校ホームページなどにより、成果のPRに努める。

エ 生徒指導の方針について

- ・保護者の理解が得られるよう、引き続き生徒主体のルールメイキング委員会や生徒、教職員、保護者による三者対話会等を活用し、現実に照らしながら校則の改定を進めていく。